

高知県土佐市・いの町での 地理学的総合調査

土佐市およびいの町で地理学的総合調査をおこない、その成果を報告書として地域に還元しました。また、市役所職員・地域おこし協力隊の隊員との交流会も行いました。



漁業に関する調査の様子

活動の概要

目的	地理学的調査方法の学習 / 調査結果の地域還元
連携メンバー および役割	高知県土佐市 / 高知県いの町...調査先との橋渡し、調査先の関係資料の提供、地域に関するレクチャー 関西大学文学部教授 野間晴雄 / 同学部助教 松井幸一...調査にかかる実施および調整全般
活動地域	高知県土佐市 / 高知県いの町
活動期間	2015年4月～2016年3月
費用	地理学実習調査費(校費)、自費、日本学術振興会科学研究費(基盤研究B 代表 野間晴雄)

連携の経緯

近年、実習調査は太平洋沿岸の黒潮地域でおこなっている。今回も調査内容、自治体の規模などを総合的に判断して市役所および町役場に受け入れを打診して調査をおこなうこととなった。

解決すべき課題

- (1) 地域外への情報発信
- (2) 若者の流出
- (3) 土佐市中心部の商店街の衰退
- (4) 南海トラフ地震への防災対策
- (5) 小規模製紙業の後継者問題



土佐市宇佐での土佐節の現状調査①

ドラゴン広場での市役所職員との交流会

大学の役割

本活動は学部3年次生、大学院博士課程前期課程1年次生を中心とした地理学・地域環境学専修の実習授業の一環で4泊5日の調査をおこない、報告書を作成するものである。

今回は高知県土佐市・いの町で自然・防災、農業、漁業、製紙、生活行動、四国遍路の6つの調査テーマを設定して調査をおこなった。具体的には安政地震の被害地域の復原、防災意識についてのアンケート調査、波介川沖積低地の水害危険性を調査・分析、農業的土地利用の分析、土佐節の現状、製紙業の現状と近代化、買い物行動範囲の分析、お遍路参加者へのアンケート調査など複数の調査をおこなった。

成果

- (1) 報告書『高知県土佐市の地理 地理学実習報告書(40) 2015年度』を作成し、市役所・図書館・地理学関係機関などに還元した
- (2) 大学院生が水害と防災について『千里地理通信』(関西大学地理学地域環境学研究室)に成果を公表
- (3) 関西大学史学・地理学会で学部生を中心に2件のポスター発表を行った

今後の展望

- (1) 次年度以降も別地域で同様の調査・報告書作成をおこなう予定。

研究者の紹介



文学部 教授
野間 晴雄
(のま はるお)



文学部 助教
松井 幸一
(まつい こういち)

専門は農業・農村地理学、文化地理学、歴史地理学、アジア地誌。日本を含むモンsoonアジア農村社会の比較研究を行っている。黒潮地域の比較共同研究の代表。

専門は歴史地理学・村落地理学。現在は村落がいかに形成され拡大してきたのかを日本・東アジアを対象として研究している。



土佐市宇佐での土佐節の現状調査②